明治維新150周年カウントダウン企画

薩摩藩英國留學生同行記

Record of Satsuma Students Travel Companions

ついに出航！英国留学生秘密裏に英国へ

参考資料／薩藩海軍史・薩摩藩英国留学生（中公新書）

画／竹添 星児　本文監修／東川 隆太郎

第1回 全6回

この度、ついに薩摩藩によって十九人の藩士が秘密裏にイギリスへ送り出されたことが、本紙記者の取材で明らかになった。一団は四月十七日に串木野郷羽島村から、長崎の貿易商グラバーが手配した蒸気船「オースタライエン号」で出航。十五人の留学生と四人の視察員で構成され、留学生はイギリスで技術研究に励み、視察員は西洋諸国の視察のほか、軍艦などの買い付けも行うとみられる。

留学生派遣決めた「五代友厚上申書」とは

幕府が海外渡航を禁じている現在、海外への留学生派遣は薩摩藩にとっても大きな決断であったと思われるが、今回の計画には五代友厚（ごだいともあつ）の上申書が大きな役割を果たしたようだ。元治元（一八六四）年に提出されたこの上申書では、主に上海貿易による国内の特産物の輸出と、海外への留学生派遣の二つの提案がなされ、貿易で得た利益をもって留学生に同行する視察員がヨーロッパで蒸気軍艦などを買い付ける計画が描かれた。これは文久三（一八六三）年の薩英戦争以降、西洋の技術を重要視している薩摩藩の方針とも合致する。上申書には経費や利益などの具体的な数字までもがあげられており、藩政を行う国父・島津久光（しまづひさみつ）を納得させるにも充分な内容であったことがうかがえる。

五代は幼少の頃からその才能を知られ、二十二歳の時、長崎遊学を命ぜられて長崎海軍伝習所でオランダ式の海軍技術を学んだ。薩英戦争では蒸気船「天祐丸」の船長として参戦したが、イギリス軍の捕虜となる。このとき西洋の軍事力を目の当たりにし、日本の富国強兵の必要性を痛感したようだ。さらに長崎で貿易商のトーマス・グラバーと懇意になったことで、海外貿易や留学生派遣のアイデアが具体化したのであろう。五代自身も今回の一団に視察員として同行している。

五代友厚の上申書では、留学生に同行する視察員が蒸気軍艦などを購入する計画が描かれた。

国立国会図書館 蔵

五代 友厚（ごだい ともあつ）

〈天保6(1835)年 - 明治18(1885)年〉

薩摩藩英国留学生に視察員として同行し、欧州視察や紡績機械や武器の買い付けを行う。帰国後明治政府では参与職外国事務掛・外国官権判事・大阪府権判事兼任などを歴任した。大阪商法会議所初代会頭。

寺島 宗則（てらしま むねのり）

〈天保3(1832)年 - 明治26(1893)年〉

薩摩藩英国留学生に視察員として同行し、主としてイギリス外務省との外交交渉にあたる。帰国後明治政府では外交官として条約改正に取り組み、外務卿・文部卿・元老院議長などを歴任した。

鹿児島県 歴史資料センター 黎明館 蔵

新納 久脩（にいろ ひさのぶ）

〈天保3(1832)年 - 明治22(1889)年〉

薩摩藩英国留学生を視察員として引率し、五代らと共に欧州視察を行う。帰国後は薩摩藩の家老となる。判事として明治政府に出仕後、奄美の大島島司となり黒糖の流通改革等を行った。

家柄、思想、様々に人物を選抜

留学生は、将来家老職に就くべき家柄から四人、藩の洋学養成機関「開成所（かいせいじょ）」の学生から十二人が選抜された。メンバーには西洋諸国を敵とみなす攘夷論者も含まれるが、これには彼らを西洋の実情に触れさせることで富国強兵論に転向させようという五代の狙いがある。薩摩藩としても、今後藩が一丸となって西洋と対等に渡り合える国づくりを行うためには、さまざまな思想や立場の人間に世界を見せることが必要との思いがあるのだろう。

しかし実際には攘夷論者側の反発もあったようで、家老職に就くべき家柄のなかから、畠山丈之助（はたけやま たけのすけ）ほか二人は辞退を申し出たとされる。久光自ら説得にあたったものの、最終的に畠山以外の二人は固辞したようだ。この欠員に対しては同列の家柄から二人を補充し、計十六人での留学が決定した。

一団は船を待つため今年二月から約二カ月ほどを羽島で過ごしていたが、この間に留学生の一人が亡くなり、最終的に十五人での留学となった。密航ということもあり、未だ見ぬ地への期待と不安の両方を抱えての出航に、逗留先には留学生の決意の和歌が残された。

君か為忍ふ船路としりながら
けふのわかれをいかて忍ひん
畠山丈之助（留学中の変名・杉浦弘蔵）

花ならぬ影も匂ひて羽島浦
更にゆかしき今日にもあるかな
市来勘十郎（留学中の変名・松村淳蔵）

留学生らは途中香港やカイロなどに立ち寄り、目的地ロンドンを目指すとされる。本紙記者もその海外渡航に同行し、彼らの様子を追う予定である。

※本紙は薩摩藩英国留学生の当時の様子を新聞風に紹介する企画です。
※記事内の日付は新暦を用いています。

留学生らは二カ月間羽島に逗留し、船を待った。

次回
留学生、船上で西洋文化に触れる